

# 全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

## あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。本年もよろしく  
お願いいたします。昨年末から「令和の大改修」の趣  
意書を配り始め、寄進のお願いを始めました。

すでに申込用紙を郵送やファックスでお送りいただいております。社会や経済が激変する中、檀  
信徒の皆様から暖かな心のこもった励ましを頂いております。一方「寄進はしたいが、生活が苦  
しい中、3口も出せない」と悲痛な申し出もいただきながら、全久院を現在の建物のまま次の世  
代に引き継がせたいという気持ちは、檀信徒の共通のものともお伝えいただいております。その  
お気持ちを頂きながら、**寄進のご協力を頂ける範囲で金額を検討いただけたら**と存じます。

春からは先代が住んでいた住居を改装して、住職は秋に移ります。その間に庫裡の荷物を整理  
します。再来年庫裡の住居部分の改修に入ります。復興当時からある道具や書類を整理し、保存  
するあわただしい日々が始まります。法事などにつきましてもお勝手や庫裡の控室が使えなくな  
るなどご迷惑をおかけしますが、お便りやホームページを使って情報を発信してまいります。

コロナ感染症もまだまだ終息とはなりません。総代の皆さんや檀信徒皆さんの意見を頂戴しな  
がら、皆さんの知識を結集して改修事業や全久院の運営をしてまいります。本年もよろしく願  
いいたします。

## 令和の大改修 進展状況

**申し込み開始** 令和4年末より檀信徒の皆様へ「全久院令和  
の大改修」の趣意書を配り始めました。趣意書などにもお書  
きしましたが、コロナ感染症、ウクライナ問題、世界経済、

円安など経済状態が悪い中、寄進をお願いしなくてはならないことはわたくし共にとりましても  
苦渋の決断であり、檀信徒の皆様にとりましても多大なご負担と拝察いたしますが、何とご理解  
賜り、ご協力をお願い申し上げます。

**申し込み方法** 封筒には「寄進趣意書」「全久院の歴史」「申込用紙」「郵便払込取扱票」を入  
れてあります。内容をお読みいただき、寄付金額・納入回数など決めていただき、「寄付申込書」に  
ご記入ください。記入いただいた用紙をファックスか郵便にて全久院までお送りください。ファ  
ックス番号や全久院の住所は申込用紙  
の下の段に標記してあります。申込用  
紙を元帳簿として会計整理をいたしま  
すので、お手数をおかけしますが宜し  
くお願いいたします。

**後藤先生レポート** 松本市の歴史研  
究の第一人者 後藤芳孝氏(右 写真)  
に、全久院の蔵に保管されていた明治  
からの文書を調べて頂いております。  
後藤先生は全久院の檀家様でもありま  
すので快くこちらの申し出を受けてく  
ださり、週に一度のペースでお寺に來  
ていただいております。「全久院報」に  
その成果を連載していただき、大改修  
の完成時に本にまとめ皆様にお配りし



たいと考えています。本号より連載を開始いたします。

## 第1回 「全久院はどんなお寺か」

全久院本堂の耐震化や庫裏の改築という大工事が始まるのに合わせて、その歴史をふりかえるシリーズを始めます。菩提寺の全久院がどんなお寺なのかをすることは檀家の努めでもあります。

第1回は、全久院の概略です。現在の全久院は、禅宗寺院で曹洞宗、横浜市鶴見区にある大本山総持寺に属しています。山号は青龍山で本尊は釈迦牟尼仏です。全久院は松本城主戸田家の菩提寺でした。戸田氏が城主として各地を移動するときには、それに従ってそれぞれの場所へ移っていきました。戸田氏が江戸時代中期に松本へ戻ってきたときには、伊勢町の北側に寺地を定め、明治維新まで続いてきました。ところが維新時の廃仏毀釈で戸田家菩提寺の全久院は率先して廃寺とされ、建物は筑摩県の学校（開智学校の前身）として使われたことはよく知られています。戸田家の菩提寺として存続してきた全久院はここでいったん終焉となりました。

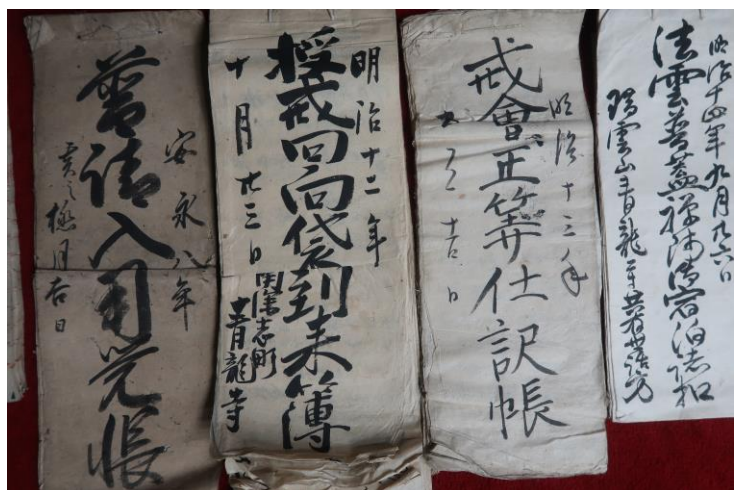
廃仏毀釈の嵐が落ち着くと、廃寺になった寺は少しずつ復興をします。しかし全久院跡地には擬洋風校舎の開智学校が新築開校していて場所ありません。そんなとき、廃仏毀釈に抵抗したことで著名な大町の靈松寺住職安達達淳（あだちたつじゅん）和尚が、全久院の歴史と名を惜しんで、宮村町現在の場所に一寺を興し、まず明治11年大町靈松寺末寺を移し青柳寺（せいりゅうじ）を開きました。明治31年には青柳寺を改め全久院としました。こうして歴史ある全久院が松本に復活し、現在まで法灯をつないでいます。

おいおい関係を述べることにしますが、全久院関係寺院は、戸田氏の出身である三河には静岡県豊橋市に全久院があります。また、廃仏毀釈を避けて新潟県三島郡出雲崎町に移った全久院が存在しています。

お寺では、全久院の歴史をたどるための史資料を探しています。これは関係しそうだと思うものがありましたら、ご一報ください。

（後藤 芳孝）

右の写真は蔵に収まっていた古文書です。安永という年代が読めます。1770年ころの台帳です。次の文書には明治12年青柳寺の文字が読めます。先代から青柳寺の事は聞いておりましたが、それを目の当たりにするのはこれが初めてです。これから後藤先生と内容を調べながら、全久院の廃仏毀釈からの復興を探って行きたいと思います。



## コロナ感染症に対応する法事や葬儀の仕方

前号でコロナ感染症がどのように法事などを変えたかのお知らせをしました。昨年も感染者数が増減する度に、法事にお呼びする人数、法事後の飲食や飲酒をする・しないが変化しました。しかし、昨年末の第8波の波が押し寄せ、もう一度コロナ感染症への対応を確認したいと存じます。

**法事** 3密にならないように人数を絞って集まり、感染拡大している地域の親戚の配慮を忘れず、読経や焼香などのお参り、飲食・飲酒は時間短縮などの配慮をする。止めるという選択肢もありますが、開催しながら臨機応変の対応をすることも必要かと考えます。

**葬儀** やはり「3密にならないように」が基本です。

- 1, 参加者 少人数で遠隔地の方は呼ぶ場合は配慮が必要。
- 2, 飲食・飲酒 弁当をお渡しし閉会するのも一案ですが、短時間で会食するのも良いと考えます。「全久院はお酒を飲まないと言われている」と古くからお付き合いさせていただいている檀家様もいます。1周忌や3回忌は飲食を共にしますが、葬儀の祭は控えておきましょう、とおっしゃる方。いや、短時間で切り上げるので、という方もいらっしゃいます。皆で最善の方法を創り出してゆきましょう。
- 3, 会場 人数制限し少人数になりますから、自宅やお寺をお勧めします。お寺は檀家の皆様によっていただいた建物ですので、**会場費はいただきません**。もちろん設備の整った葬儀社のホールでとお考えの方もいらっしゃいますが、設備の良い分だけ経費もかかります。いろいろお考えいただきながら、最善の方法をお選びください。
- 4, 費用 会葬者・列席者も以前より少なくなりましたから、葬儀や法事費用はほとんど喪主・施主様が支払わなくてはなりません。葬儀では食費やお返しの商品などの費用を別にすると、役所への届け出や火葬費用、葬儀に必要な基本的な物品の費用は20～30万円程です。後は式場をどこにするかです。

檀信徒の皆様のご要望を聞きながら、進めてまいりますので、前もってお寺と相談しておくことをお勧めします。

## 全久院の集い

### 坐禅会 ・ ・ 六十七則「嚴經智慧（ごんぎょうちえ）」 ・ ・

曹洞宗の座禅のテキストと言われる「従容録」六十七則は華嚴經を説明しています。華嚴經（けごんきょう）は「華嚴哲学」と言われ、仏教哲学を説く根幹となるお経です。お釈迦様は「因の華 能く果徳を莊嚴する故に華嚴という」と説かれています。つまり、仏教の根幹となる「縁起の法」、つまり良い原因、良いことをすればよい報いが得られるという教えにより、華という原因により、徳という結果が莊嚴（建立し、飾られる）されるから華嚴ということが出来る、と説かれているのです。

華嚴經の本尊様は毘盧遮那如来です。奈良 東大寺の大仏がそれです。インドのヒンズー教では太陽神であり、智慧が廣大無辺であることの象徴となっています。如来とは日本では如来様と呼ばれ、私たちを苦悩から救ってくれる仏様です。お釈迦様は字のとおり「如きにし来たり、如きにし去ると」、如来様を説明しています。例えば、「春」は春という事実があるのではなく、暖かい、日の光、芽吹き、開花など、状況を説明し、その様なモノとしてしか説明できません。つまり「如きモノ」です。如きものとして来る、つまり如来です。人間は如きモノでははっきりしないので不安になります。その不安を離れた処が真の智慧、如来の智慧になります。ではどのように不安から離れることができるでしょう。頭だけで考え、一つ一つ現象を追いかけるだけでは到底如来の智慧や真実の到達できません。自分を律する行を、日々の生活という行を通してのみ如来に到達できます。仏教辞典には、如来は修行を完成した人、真理の体現者、真如より来生する者、衆生を教え導く者と表記されています。頭ばかりでなく、生活の中での体験から如来の智慧に気付くことができます。

また、華嚴經は私たちの身近にあります。「華嚴の滝」は皆様ご存じの事と思います。また、東海道五十三次は華嚴經で説かれた善財童子の求道の旅に由来しています。善財童子はインドの富豪の息子として生まれました。文殊菩薩の弟子となり修行を始めました。仏教の教えでは五十三の修行の段階があるとされています。五十二人の指導者を訪ね修行を重ね、最後に五十三番目の仏位につかれた、という故事に因んで名付けられたのです。このように私たちの身近な処に華嚴經は存在しています。このように深遠な教えと共に、日本文化に溶け込んだ華嚴經の功德を六十七則では説いています。

## 宗務所長の務め

宗務所の業務の中で、宗侶の研修を行うのが「現職研修会」で、大切な事業の一つです。現在は人口減少、少子化、檀家の減少、宗教離れ、葬儀や法事の形態の変化縮小、など寺院を取り巻く環境が激変しています。それにどう対応するかを研修しています。宗教事情に精通された講師に来ていただき勉強会をしています。コロナ感染症に伴いリモートでの講習会になっています。(右はズームを使った講習会)



主に若手の宗侶が参加していますが、ワークショップの形式で皆さんの意見をまとめてきました。現在の若手のお坊さんが考えていることをお伝えしたいと思います。

- 1、寺からの一方的な押し付けでなく、檀信徒の皆様の視点に立つ
- 2、自己研鑽をして檀信徒の皆様の立場に立った曹洞宗の教えを身に着ける
- 3、過去の伝統を大切にしながら、現代に沿った、分かり易い発信をする
- 4、曹洞宗の教え、葬儀や法事の分かり易い説明、費用の明確な説明が必要
- 5、寺院がどのように経営維持されるか費用を含め明確に説明する
- 6、お便りのどの紙の媒体や、パソコンなどのウェブの媒体など、どう伝えるかを改善するなど様々な意見が出されています。

それぞれの寺院の歴史や地域性に合わせて寺院の活動をしてまいります。寺への皆様の意見どんどんお伝えください。

**宗務所長引き継ぎ** 宗務所長の任期は4年です。昨年12月10日に任期が終了し、市内 正麟寺 宮沢淳毅住職に職を引き継ぎました。任期4年を振り返ると、引き継ぎ後1年が経ち、これから！という時コロナ感染症が始まりました。どんな感染症なのか分からず、3密、マスク、消毒、対面はダメなどの言葉が飛び交い、会議や飲食もできず、何ができるのだろう？と皆様と同様途方に暮れました。ウェブを使ったリモートでの会議や研修会など習得して活路を開きました。私自身もパソコンを使えるようになりました。所長の職もこれで終わり、いよいよ全久院の檀務や改修に全力を挙げます。所長の任務に支援を頂いた皆様に感謝するとともに、襟を正して檀務に精進いたします。



## 大黒コーナ

ドニゼッティ作曲 オペラ 『愛の妙薬』公演 練習を開始しました

オペラを楽しむ会第11回公演実行委員会主催 第11回公演 「愛の妙薬」は4月23日(日) 14時開演 まつもと市民芸術館 主ホールにて上演されます。チケットは大人5000円、大学生2500円、小・中・高生1000円、全久院か松本市民芸術館チケットカウンターにて販売いたします。

このオペラはスペイン・バスク地方のどかな田舎の村が舞台。文無しで不器用な農夫ネモリーノは、村で一人だけ『トリスタンとイゾルデ』を読むような



頭のいい地主の娘アディーナを熱烈に愛しているが、彼女の方はそっけないフリ。そこにやってきたインチキ薬売りのドゥルカマーラから、ネモリーノは「愛の妙薬」と偽った安ワインを買う。一気に強気になったネモリーノに当てつけるように、アディーナはイケメン軍曹ベルコーレと婚約するが、結局最後はネモリーノの一途さに打たれて二人は結ばれる、というロマンティックコメディ。感情のほとぼしりがいたるところに感じられ心に染みる、ベルカント・オペラを代表する作曲家 巨匠ドニゼッティの大作です。

楽しいストーリーの中に時折流れる哀愁漂う甘く美しいメロディー、そして歌手たちのそれぞれに個性的な美声と見事な歌のテクニック。アリアもデュエットも合唱もロマンティックで楽しくて、「オペラって なんて素敵！」と素直に思える作品。そんな、シンプルで楽しいストーリーと音楽でオペラの醍醐味に浸れるのが、ドニゼッティの《愛の妙薬》。有名なアリア「人知れぬ涙」はじめ、「優しいそよ風にお聞きなさい」「なんという愛情でしょう！」などのアディーナとネモリーノの2重唱や、他4重唱に合唱が加わる音楽的な広がりのある感動的なシーン、ワクワクするような魅力的な曲が目白押し。

オペラを楽しむ会では総監督澤木和彦先生のもと、イタリアの伝統芸能であるオペラを日本では珍しく、イタリア・ベルカント唱法で公演することにこだわったイタリアの伝統を大切にしています。つまり、呼吸法などの発声の基本の上に歌う生身の人間の声と、オーケストラの音色の響きを全身で感じていただきたいという思いで公演しています。ネモリーノ役にお迎えしたのはチャーミングな実力派テノール谷川佳幸。アディーナ役は、オペラを楽しむ会の主宰のソプラノ倉科京子。美声で安定した歌唱力。若々しく演じます。ドゥルカマーラを歌うのは、塩尻市出身の井手守。たくさんの薬や病気の名前をイタリア語で覚えて、低音の魅力と面白いキャラで皆さんを楽しませてくれることでしょう。アディーナがネモリーノにあてつけるように婚約したイケメン軍曹ベルコーレ役は藤森秀則。彼は県内の某高校の音楽の先生ですが、まさに適役で楽しんで稽古に励んでいます。

日本で大変希少になってしまったベルカントの技術を持つ歌手を一人でも多く育てる他、イタリアオペラの雰囲気をご堪能いただき、感動いただける舞台を出演者・スタッフ全員が一つになって創り上げていきます。

## **掲示板** (皆様のご参加お待ちしております)

下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を寺に確認の上お越しく下さい

1月21日(土) 4時より全久院で開催します。今年もコロナ感染症に対応するために各部の発表などは中止しますので、茶道部による茶室での薄茶など中止します。4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告、全久院令和の大改修の経過報告を致します。4時40分より本堂にてお参り、終わって皆さまにお弁当をお配りして感染症予防のためお開きと致します。なお、マスク着用、熱のある方は出席しない、などの対応をお願いいたします。参加希望の方は1月14日(土)までに電話でご連絡ください。

．．． **観音講** ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時30分からご詠歌、11時から大黒の指導で唱歌の合唱、11時30分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在15人ほどの参加者がいます。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。住職の役職の都合で日程の変更がありますので電話などで日程の確認をお願いします。なお食事代で500円お願いします。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． **座禅会** ．．．

2月18日(土)・3月18日(土)・4月15日(土)・5月20日(土)・6月17日(土)・7月15日(土)・9月16日(土)以上が上半期の日程です。基本的には第3土曜日夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみることを是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。青山老師をお呼びしての講演会をするための積立金1000円お願いします。

．．． **ご詠歌の会** ．．．

2月8日(水)・3月8日(水)・4月12日(水)・5月24日(水)・6月14日(水)・7月12日(水)・9月13日(水)第2水曜日、午前10時半より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。なお参加費用1回2000円をお願いいたします。

．．． **歌の会「花かんざし」** ．．．

1月18日(水)、2月1日(水)・2月15日(水)・3月1日(水)・3月15日(水)・4月5日(水)・4月19日(水)・5月10日(水)・5月30日(水)・6月7日(水)・6月21日(水)・7月5日(水)・7月19日(水)・8月2日(水)・8月30日(水) 第1・第3水曜日に開催します。大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。時間は10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

．．． **ホームページもご覧ください** ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>